東京学芸大学　先端教育人材育成推進機構・外国人児童生徒教育推進ユニット　主催

# 2024「多様性が活きることばの教育実践」 第2回実践交流会

研修資料について
教育・研修を目的とした場で参照資料としてのご提示に留めてください。部分的な切り取りや、加工はお控えください。また、本事業資料である旨を明示してご利用ください。

## 概　要

| | |
|---|---|
| 実施日 | 2024 年9月 14 日(土) |
| 参加者 | 参加者数:21 名 |
| アンケート回収数 | 14 件(66%) |

## プログラム

1　講演:「私」から始まることばの教育実践～教員のアイデンティティを考える～

オーリ リチャ氏(武蔵野大学)

2　参加者同士の実践の交流

実践の紹介(屋台村方式)　グループでの話し合い⇒個人でのふり返り

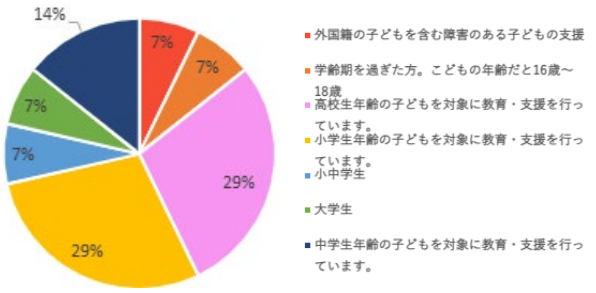
1)実践紹介:持ち寄った実践についての, 屋台村形式での共有と質疑応答

2)グループディスカション:他の参加者の実践共有からの気づきや発見に関しての話し合い

3)個人でのふり返り:「わたし」という視点からの実践のふり返りと今後の実践に向けての構想

## アンケートより

〈参加者の子どもの日本語教育への関わり〉




〈参加者の声〉

- 子どもたちにできることを「私」を通して考えて行くこと、「心の話」をすることについて考えを深めることができました。実践のなかでも信念や理念を持っていらっしゃる方が多くいらっしゃり、自分自身の考え方を改めて振り返る時間になりました。
- 皆さまが持っていらっしゃった実践は、それぞれ素晴らしかった。しかし、その実践の過程を伺うと、その実践に至る前に失敗があって、何度も方法を修正してできあがった方法だったり、次回する機会があったらココを直したいということがあったりと、失敗があったことがわかった。失敗の話が伺えたことは、次に私が実践するときに役立つし、失敗したときの考え方や工夫の仕方も大変参考になった。

## 研修企画者より

第2回実践交流会は,「私たちの実践の根っこにある子どもに対する見方について見つめ直し, 新たな実践へとつなげていくこと」を目的に, 大阪で対面で実施しました。交流会の前半は, 武蔵野大学のリチャ先生を講師に招き, 私たち一人ひとりが子どもたちをどのように見たり, 関わったりしているのか, また, それらが子ども一人ひとりの自分自身の捉え方にどのように影響を与えているかについて考える視点を共有していただきました。ご自身や娘さんのご経験, また, ご自身が関わるプロジェクトなども織り混ぜながら, 教師と学習者双方が「わたし」として教育や学習に関わり, ふり返ることの重要性をお話しくださいました。

交流会の後半は, 参加者各自が持ち寄った実践を屋台村方式で紹介し合いました。小学校から高校, さらには地域において実践された, 日々の小さな取り組みからプロジェクト型学習まで, 様々なアイディアや実践が共有され, 活発な質疑応答が行われました。紹介の後は小グループに分かれ, 他者の実践を聞き, どのような気づきや発見があったか, どのように自身の実践に活かせると思ったかを話し合いました。最後に, リチャ先生のお話なども参考にしながら, これまでの自身の実践をふり返り, 今後どのような取り組みをしていきたいと考えたかを, 個人で文字にし, それを交流会のまとめとしました。

「実践」と聞くと整ったもの, 成功したものをイメージしがちですが, 今回はリチャ先生のお話で「わたし」が意識でき, その上でそれぞれの実践に基づき交流することで, 自分はどのように実践に向き合ってきたのか, そして, これから向き合っていくのかを考えるきっかけになったのではないかと考えています。